

# 板谷沢左俣

I.  
一九八五年八月三一日

板谷沢林道起点に車をデポし、しばらくは林道を歩いて、大沢出合から遡行を開始する。しばらくは林道との並行で河原歩き。やがて林道も終点となり、フトン籠による土留と

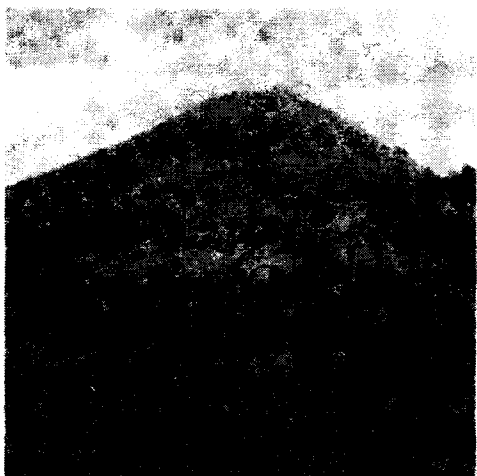
コルゲートパイプの排水管がある。この箇所、右岸、左岸より滝状となつて小沢が合流している。先に進むと二俣となる。水量はほぼ同量。地図に水線の引かれた左俣

に入る。適当に小滝が出てきて、変化に富んでくる。

源頭部に来ると、倒木が沢を覆って歩きにくい。倒木の下は花崗岩のナメとなっており、稜線まで一気に突き上げているのを確認して遡行終了とし、戻ることにする。

(記：(一) (二))

「タイム」 林道起点(一四:〇〇)↓  
大沢出合↓二俣(一四:四五)↓  
左俣終了(一五:一〇)



五郎山